

研究室設計監修の児童館、評判上々

北沢・野原両教官、大野村完工施設を訪問

煙舞う京浜臨海部に没頭する日々の中、岩手県大野村に霧舞う「やませ」もまた愛し。7月9(土)-10(日)、北沢猛教授と大野村を訪問しました。大野村は来年隣の種市町と合併し、洋野町(ひろのちょう)となります。(野原卓助手)



竣工した林郷児童館



センス光る竣工したおおのパン工房売場



ボランティアで桜周りの草取り



児童館横の畑



大野村唯一の曲家(まがりや)



完成したおおのダム

- 1) **林郷児童館竣工** 当研究室で地域づくり(一昨年度)及び設計監修を行った大野村林郷地区の林郷児童館が4月より開館しました。評判も上々のようで、こどもたちにも楽しく利用されていました。
- 2) **おおのパン工房 OPEN** 4/23より水沢地区の旧小学校(現地区センター)の木造校舎+増築を利用した「おおのパン工房」がOPEN。20-30代の女性組合員を中心に、若いセンスの店で日々繁盛しています。
- 3) **おおのダム桜植樹** 同日(4/23)おおのダムのOPENも記念して、桜の植樹が行われました。ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ合わせて350本の木を「桜の会」から譲り受け、地元の方々を中心に植樹しました。視察当日(7/9)訪れると、地元ボランティアが草刈に精を出して下さっておりました。
- 4) **水沢縄文きてけろ祭り** 水沢小学校統廃校のガックリも払拭して、地域の元気を取り戻す企画として昨年開催された縄文きてけろ祭り、今年も開催予定(9/25)。プロジェクトJ(中高生中心の地域づくり集団)もお手伝い、おおのパン工房も参戦。曲家開放企画も計画中(予定)。



野原卓助手、国際都市再生研究センターへ異動

京浜に喜多方、はたまた都市デザイン部の部長としてばりばり活躍中の野原助手は、7月15日をもって都市工学専攻を離れ、建築・社会基盤・都市3専攻共同の研究拠点である国際都市再生研究センター所属の特任助手となりました。活躍の場が国際的に学際的に更に広がることが予想されます。とはいえ、引き続き都市デザイン研究室スタッフとして、あの厳しい笑顔で指導にあたってくれることになっていますので、卓ちゃんファンの方々、ご安心を。

第6回研究室会議

第6回研究室会議は20日(水)開かれ、次の院生8人の研究発表があった。三澤茂樹「東京・駅前広告物の誘導&規制のあり方について」、楊恵亘「都市の歴史空間の再建について」、坂内良明「ラブホテル街の研究—不可視化する都市の性空間を追って」、伊藤晃久「木造密集市街地における高齢者を主体とした介護まちづくり」、大谷剛弘「都心駅前型商店街の変化に関する研究」、内山隆史「民間都市開発における事業者から見た市民との協働によるデザインの可能性」、田辺康弘「現代地方都市における“参加型遊び場”に関する研究」、戸田惣一郎「温泉地における共同湯の保全と再生」。



納涼ビアパーティ

7月26日(M1)27日(M2)のジュリーを終えた27日夜、学生会館本郷分館ガーデンビアホールで研究室の納涼ビアパーティが開かれ、ジュリー準備徹夜組もまじって25人が英気を養った。歓談果てしなく、青春舞台は二次会に繰り出した。

善福寺池愛情協会、第一回まちあるきと社叢研究の一日



残っていた昭和戦前

同潤会西荻窪普通住宅地の観察



集合写真 善福寺池畔



地震の瞬間 大宮八幡宮参道23日16時35分

5月に結成された善福寺池愛情協会が7月23日に初のイベントを行った。会長は、幼少年期を杉並区善福寺で過ごした中島直人助手で、その企画による「善福寺まちあるき—東京近郊の近代まちづくり遺産—」だった。「味わいのポイント」といったソフトなガイドつき詳細資料が参加者に手渡された。

元井荻町長・内田秀五郎が主導した昭和初期井荻の土地区画整理事業による整然とした街路網などを視察後、武蔵野の自然をたっぷり残した善福寺池と井草八幡宮、和田堀公園を巡り、昭和戦前を満喫した。善福寺と和田堀は、それぞれ1930年(昭和5年)、1933年(昭和8年)指定の風致地区だった。

参加者は中島、都市デザイン研D岡村、M1江口、研究生・酒井、同イルジ、OB三牧夫妻、建築学科伊藤研D初田、東工大Dの佐野、西成の10人だった。

13時半からは、大宮八幡宮で開かれたNPO法人社叢学会関東支部定例会に出席し、中島助手が「社叢の風致と風致地区のまちづくり」のテーマで詳細な資料を配布のうえ講演した。社叢は神社の森、いわば鎮守の森のことである。講演後、参道で宮司から社叢の説明を受けていた16時35分、震度5の地震にあった。

OG通信追加 前号の石山千代 OG 寄稿「20年—御樋代木奉曳との遭遇(伊勢にて)」の最後部分を紙幅の関係で割愛しましたので、ここに掲載します。「2013年の第62回式年遷宮に向けて、今年2005年から伊勢では様々な準備と祭事が執り行われる。そして、伊勢の町・人・物事は式年遷宮サイクルで動くという。次にこの光景を目にするのは、あと20年後……身が引き締まると同時に、ありがたい思いがした」。筆者は観光計画などを専門とするシンクタンク研究員。

◆4年生インタビュー◆ <第3回> 亀長くん

海のまち・兵庫の明石で、海の日に生まれました。大震災のときは小5で、大阪に住んでいたのが難を逃れましたが、祖母の家は壁がすべて倒れる被害でした。震災復興を身近でリアルタイムに目にしていたことから、都市計画へのあこがれを持ちました。

高校のときはだいたい志望が固まっていました。研究室選びは、都市防災研究室など迷ったんですが、「デザイン」という言葉に引かれたのと、駒場時代の友達がいて活気もありそうだったので、デザ研に。卒業研究は、震災前後の都市景観の変化です。

編集後記 大著『都市保全計画』後初の今年度西村講義が、情熱・濃縮・総合の授業展開で学部4年生にインパクトを与え、7月14日に終わった。西村教授は終講後、「講義の準備は徹夜でした」と語った。授業では現研究生酒井憲一著『教え子のノートが記した西村幸夫『都市保全計画』&熟年聴講生日誌』(アメニティライフ)が配付された。また西村幸夫編著『都市美』の書評が7月24日付朝日新聞読書面に載り、研究室の活動は評価され続けている。(酒井)